

株式会社アイエスネクスト DX戦略 2025

2025年 7月 28日

株式会社アイエスネクスト

代表取締役 石井 邦彦

1.DXに関するトップメッセージ

【DXに取り組む背景】

飲食業界は、深刻な人手不足に加え、近年の原材料費・エネルギーコスト・人件費の急激な高騰という未曾有の課題に直面しています。当社においても、これらの外部環境の変化は事業継続における喫緊の課題です。

私たちは、この状況を打破する鍵がDXにあると確信しています。「人」が価値の源泉である飲食業だからこそ、デジタル技術でノンコア業務（発注、勤怠管理、情報共有など）を徹底的に効率化し、従業員がお客様への「おもてなし」や調理といった本質的な業務に集中できる環境を構築することが不可欠です。

さらに、データに基づいた需要予測は、食品ロスの削減と機会損失の最小化に直結します。DXの推進は、単なる業務効率化に留まらず、経営体質そのものを強化し、持続的な成長を可能にするための最重要戦略であると位置づけています。

【社長が目指すビジネスモデル】

接客はアナログで温かみのある「おもてなし」を追求し、お客様を笑顔にすることを事業の核とします。その一方で、デジタル技術の導入によりノンコア業務の省力化を徹底し、深刻化する人手不足の課題を解消します。これにより従業員の負担を軽減し、良好な労働環境を提供することで、食を通じてお客様と従業員の双方が心から笑顔になれる企業となることを目指します。

これまでは、来店できるお客様にラーメン、唐揚げ、定食、餃子、カヌレ等を直接提供してきましたが、今後はGoogleマイビジネスのデータをルッカースタジオで分析し、お客様のニーズに合わせた商品開発及びメニュー化を行い、ES（お客様満足）を強化していきます。

また、飲食業界での勤怠管理、シフト作成は特に手間がかかり、悩んでいる経営者も多いと思います。当社は、飲食店の勤怠管理を効率化・合理化できるシステムを開発し販売することで、飲食業界に貢献していきたいと思っています。

2.経営理念・経営ビジョン

【経営理念】

私たちは食を通して 世の中を笑顔にします

【経営ビジョン】

食を通してお客様、従業員、世の中を笑顔にしたいと思っています。

私たちは、心を込めた食の提供と最新のデジタル技術を通じて人々がつながり、お客様と従業員や生産者が交流し、笑顔になれる場を創り出したいと考えています。

従業員がやりがいを感じることができれば、仕事に誇りを持ち、温かみのある「おもてなし」ができるようになります。また、従業員が笑顔で働くことで、お客様も笑顔になれると信じています。

従業員もお客様も笑顔になれる飲食店を経営することで、飲食業界全体の活性化にもつなげ、善の循環を生みだし、社会貢献をしてまいります。

3.DX戦略

経営ビジョン及びビジネスモデルの達成のために、以下の3つのDX戦略を推進し、毎年売上げの1%を投資します。

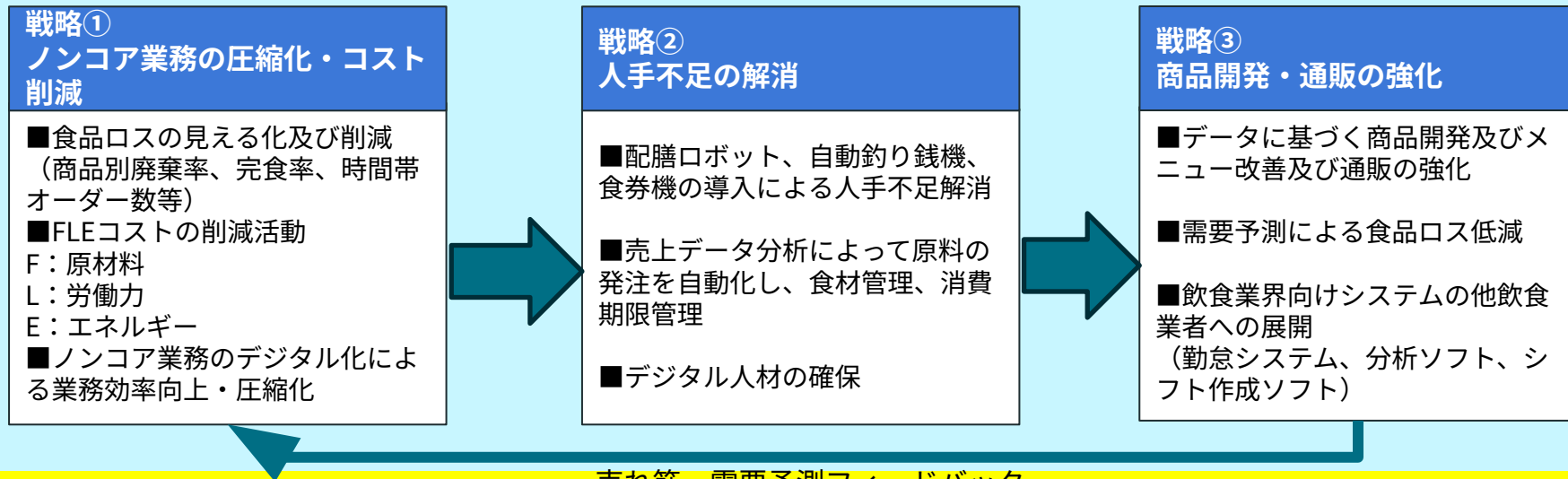
戦略①ノンコア業務の圧縮化・コスト削減：デジタル技術によるノンコア業務の圧縮化・食品ロス、FLE※などのコスト削減

戦略②人手不足の解消：デジタル技術の活用による業務の省人化、売上データ分析による発注業務効率化、デジタル人材確保

戦略③商品開発・通販の強化：データに基づく商品開発、通販の強化、飲食業界向けシステム展開

※FLEは、Food（食物）、Labor（労働）、Energy（光熱費）のこと。昨今3つとも高騰しており大問題となっている。

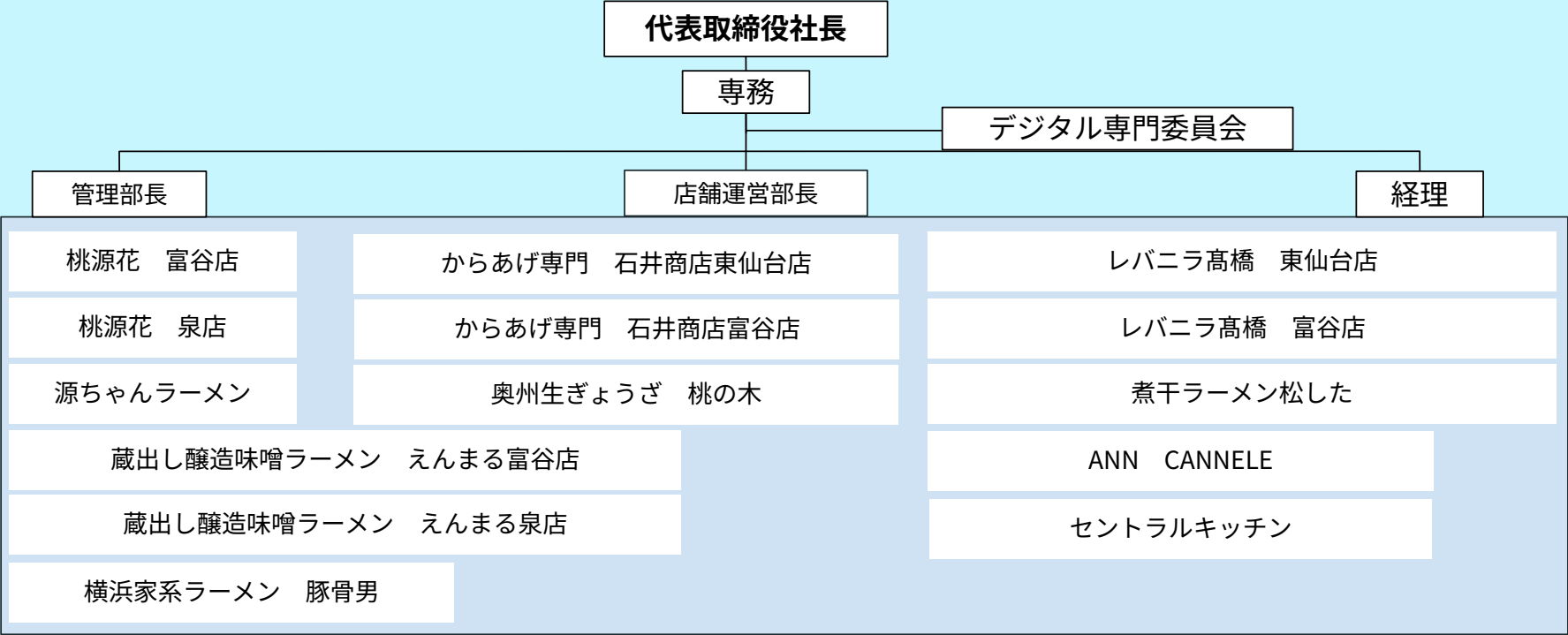
デジタル化によって商品別廃棄率等の食品ロスの見える化・削減⇒人手不足解消⇒商品開発・通販強化⇒需要予測による食品ロスの低減という好循環を創り出します。また、その過程で得た勤怠管理システム等の知見を他の飲食店にも提供することで、飲食業界全体の発展に貢献します。



4.DX推進体制・人材育成

当社は、代表取締役社長を委員長とするデジタル専門委員会を設置し、専務及び各部門長をメンバーとして定期的にミーティングを行い、DXを推進します。また、本委員会で計画をたて人材育成を実施します。

基本的なデジタル人材育成の方針は、社内・社外の研修等で、デジタル技術を駆使し業務効率化の仕組みを構築できる人材を育成することとし、より高度な専門知識やスキルを習得できる機会を提供します。



5.デジタル技術、環境整備

当社はDX推進のために下記のデジタル技術の導入や環境整備に取り組みます。

既存システム	取り組み内容	いつまでに、何をする？	担当
Chatwork	チャットGPTを活用した文章構築の仕組み	2026年迄に完了	統括マネージャー
インフォマート	原価管理・調理マニュアルの作成	2026年迄に見直し実施	統括マネージャー
ピカイチナビ	帳票の見直し/日次表の作成	2026年迄に見直し実施	経理部長
ミロク会計	クラウド化の検討	2026年迄に実施	経理部長
Voicemail	管理ルール、使用マニュアルの策定	2025年迄に完了	経理部長
人事労務コボット	システムの自動チェック機能	2026年迄に見直しを継続	経理部長
Looker Studio	管理ルール、セキュリティの見直し	2026年迄に見直し実施	経理部長
新規システム	取り組み内容	いつまでに、何をする？	担当
Chat GPT	Chat GPTを活用した議事録の作成	2025年迄に完了	統括部長/各店長
Gemini	Geminiを利用した新商品開発レシピの作成	2026年迄に完了	統括部長/各店長
Canva	Googleスライドを活用した各業態の運営マニュアルの作成	2026年迄に完了	統括部長/各店長
EzRobot	RPAで定型業務の自動化	2028年までに30業務自動化完了	デジタル委員会

6.数値目標（KPI）

当社はDX推進の状況を測る指標として下記を定めます。
毎年2回自己計画アセスメントを行った上で、その結果を反映し各チームで実行計画を見直し月一回評価行いながら、目標を達成するように工夫しています。

区分	取り組み内容	時期	目標値
戦略① ノンコア業務の圧縮化・コスト削減	1.食品ロスに見える化及び食品ロス削減	2025年までに全店舗の食品ロス率把握・削減	2025年比10%減
	2.原価率の達成	2028年までに目標原価率を達成する。	2023年比5%減
	3.バックヤード業務時間削減	2028年までに目標業務削減時間を達成する。	2025年比20%削減
戦略② 人手不足の解消	4.食券機/セルフレジ/配膳ロボットの導入	2028年までに目標値を達成する。	2028年迄に導入100%
	5.デジタル人材の確保	2028年までにデジタル技術を駆使し業務効率化の仕組みを構築できる人材を育成する	2028年までに3名
戦略③ 商品開発・通販の強化	6.通販用の新商品開発数	2026年までに目標値を達成する。	新商品を2つ開発する
	7.新規顧客の獲得	2028年までに目標の新規顧客を獲得する。	2025年比150%増
	8.飲食店向けソフト開発	2030年までに飲食店向けソフトを開発する。	2030年完了